

教科	科目	学年	単位数	使用教科書	主な使用補助教材
社会	歴史総合	1	2	詳述歴史総合(実教出版)	新詳 歴史総合

1 科目の目標と評価の観点

目標	社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。				
評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力		主体的に学習に取り組む態度	
	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界と その中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な 諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、 諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べ まとめる技能を身に付けるようにする。	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色 などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在との つながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多 角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視 野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果 的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。		近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい 社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする 態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を 通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に 対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さにつ いての自覚などを深める。	

2 学習計画と観点別評価基準

学習内容	学期	学習のねらい	観点別評価基準		
			知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
歴史の扉①歴史と私たち②歴史の特質と資料 アジア諸地域の繁栄と日本 ヨーロッパにおける主権国家体制の形成とヨーロッパ人の海外進出 ヨーロッパ経済の動向と産業革命	1 学期 (2 4)	①ヨーロッパで成立した主権国家と主権国家体制について、その特徴を理解する。 ②カトリック教会の改革の動きである宗教改革の考え方や影響について考察する。	・ヨーロッパで成立した主権国家体制と、イギリスやフランスなど各国の国家の特徴について理解している。 ・15～16世紀にかけてのヨーロッパ人による航海と探検についてまとめている。	・宗教改革とヨーロッパ人の海外進出、および宗教改革と科学革命の結びつきについて考察し、説明できる。 ・ヨーロッパ人の海外進出によってアメリカ大陸とアフリカ大陸にもたらされた影響を考察し、説明できる。	・ヨーロッパにおける中央集権的な国家体制の成立と海外進出の結びつきを主体的に探究できる。 ・「大航海時代」の結果として進んだ「世界の一体化」と現代の「世界の一体化」＝グローバル化の共通点と相違点を見出すことができる。
アメリカ独立革命とフランス革命 19世紀前半のヨーロッパ 19世紀後半のヨーロッパ 西アジアの変容と南アジア・東南アジアの植民地化 中国の開港と日本の開国		①イギリスの北アメリカ植民地の拡大と変遷を理解する。 ②アメリカ独立革命とフランス革命を理解し、その後の世界に与えた影響を考察する。 ①「東方問題」とはどのような問題であるかをとらえる。 ②イギリスによるエジプト進出とインド植民地化を把握し、理解する。 ③ヨーロッパ列強による東南アジア植民地化を把握し、理解する。	・アメリカ独立革命とフランス革命の原因とその経過について理解している。 ・ナポレオン戦争によるヨーロッパにおける変化を理解している。 ・「東方問題」に関係する国々と、問題に対する各国の対策を理解している。 ・イギリスがエジプトを段階的に植民地化したことを理解している。 ・地図の比較から、ヨーロッパによる東南アジアの植民地化を読み取っている。	・アメリカ独立革命がその後の世界に与えた影響を比較しながら、多面的・多角的に考察し、説明できる。 ・フランス革命がその後の世界に与えた影響を多面的・多角的に考察し、説明できる。 ・オスマン帝国による改革とその限界について考察し、説明できる。 ・イギリスがフランスやインドの諸勢力との戦いによって、インドを段階的に植民地化した過程を考察し、説明できる。	・アメリカ独立革命とフランス革命によってうみ出された理念や考え方について主体的に探究できる。 ・二つの革命の歴史的意義を見出すことができる。 ・エジプトとインドにおけるイギリスの植民地化の過程を比較し、共通する点や構造を見出すことができる。 ・東南アジアにおける今日のあり方と植民地化の歴史について主体的に探究できる。
明治維新と諸改明治初期の対外関係 自由民権運動と立憲体制 条約改正と日清戦争 日本の産業革命と教育の普及		①大政奉還のねらいをふまえ、明治新政府の成立や戊辰戦争の展開を理解する。 ②教育の近代化や西洋思想の流入をふまえ、文明開化の風潮と広まりを理解する。 ①自由民権運動がおこった背景および運動の高まりや担い手の広がりについて理解し、それに対する政府の対応を理解する。 ②大日本帝国憲法の成立過程をふまえ、憲法の内容を理解し、その特徴を考察する。	・大政奉還の上表以降、明治新政府が成立していった経緯を理解している。 ・四民平等へ向けた諸改革を理解し、文明開化の風潮と広まりを整理し、理解している。 ・自由民権運動の展開について、民撰議院設立の建白の史料をもとに、その目的を整理し理解している。 ・大日本帝国憲法の成立過程を理解し、その下で成立した制度や諸法典の内容を理解している。	・大政奉還の上表・五箇条の誓文の史料を読み、新政府の方針を比較して共通点・相違点を考察し、説明できる。 ・四民平等の原則により、同じ義務をもつ国民が形成され、徴兵や租税の徴収がどのようにして実施されたのか考察し、説明できる。 ・自由民権運動の展開について、民権運動の担い手側と政府の側の双方についてその動きを比較して、説明できる。 ・松方財政について政策の内容を理解し、それが自由民権運動にどのような影響をあたえたかを、具体的な事件にもふれて考察し、説明できる。	・新政府の方針をとらえるとともに、諸藩がどのように対応したかを、新政府側、諸藩側の立場にたって主体的に探究できる。 ・文明開化の内容とその風潮や広まりについて調べることを取り組もうとしている。 ・大日本帝国憲法の史料を読み、その内容について現在の日本国憲法と比較して、相違点や共通点について具体的に探究できる。 ・大日本帝国憲法や諸法典が具体的にドイツ理論やフランス法からどのような影響を受けているかを主体的に探究できる。
帝国主義と列強の展開 世界分割と列強の対立 日露戦争とその影響		①アフリカ大陸が、ヨーロッパ列強に植民地化されていく過程を把握し、その後のアフリカの発展に深刻な影響をあたえたことを理解する。 ②ドイツとイギリスの対立を軸として、同盟・協商関係が形成されていった過程を考察する。	・アフリカ大陸が植民地化されていく過程を理解している。 ・太平洋諸地域の分割が、世界の一体化の動きのなかで進展していくことを理解している。	・列強とよばれる国々が、世界の大半の地域を支配下におさめていく過程を年表にまとめ、整理し、考察している。 ・列強が、二極分化していく動向を、各国の思惑もふまえて、比較しながら考察している。	・帝国主義について、列強の植民地化という観点と、アフリカ・太平洋諸地域・ラテンアメリカの国々の抵抗という観点を多角的にとらえて、主体的に探究できる。 ・列強の動きに対して、植民地された地域において人々はどのように対応していったかを主体的に探究できる。
定期考査	2				

学習内容	学期	学習のねらい	観点別評価基準		
			知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
第一次世界大戦とロシア革命	2 学期 (24)	①バルカン半島の複雑な状況を理解し、その影響と第一次世界大戦の開戦について多面的・多角的に考察する。 ②総力戦による社会の変化を理解する。	・第一次世界大戦によって成立した総力戦体制と、その影響による社会の変化を理解している。 ・二十一カ条の要求に対する日中両国の動きを理解している。 ・ロシア革命に対する内戦の構造と、日本がシベリア出兵をおこなったねらいを理解している。	・第一次世界大戦によって確立した総力戦体制は、その後のヨーロッパ諸国にどのような影響を与えたのかを説明できる。 ・二十一カ条の要求に対して、日中両国にどのような変化を与えたのかを説明できる。 ・ロシア革命の概略とその後の国際体制の変化を説明できる。	・第一次世界大戦によって確立した総力戦体制に関して各国の立場に留意しながら主体的に探究できる。 ・二十一カ条の要求に対して、日中両国でどのような意見が出たかを主体的に考察できる。 ・ロシア革命が国際社会にどのような変化を与えたのかを主体的に考察できる。
国際平和と安全保障		①パリ講和会議とヴェルサイユ条約の内容を整理し、国際連盟の限界を理解する。 ②ワシントン会議の内容を整理し、ワシントン体制で成立した国際秩序の特徴を理解する。	・第一次世界大戦後のパリ講和会議、ワシントン会議における各国の思惑を理解している。 ・ヴェルサイユ体制とワシントン体制による国際秩序のあり方を理解している。	・パリ講和会議、ワシントン会議は、主要国の間にどのような変化を与えたのかを説明できる。 ・ヴェルサイユ・ワシントン体制とは、どのような仕組みなのかを説明できる。	・パリ講和会議、ワシントン会議による変化を主体的に考え、探究できる。 ・ヴェルサイユ・ワシントン体制がなぜ構築されたのかを双方の立場から探究できる。
アジア・アフリカ地域の民族運動		①第一次世界大戦後に民族運動が活発になった要因を理解し、その影響について考察する。 ②東アジアにおける民族運動を整理し、中国における国民党と共産党がはたした役割について考察する。	・ガンディーに象徴されるインドの民族運動を理解している。 ・東南アジア各地域における民族運動とその指導者について理解している。 ・西アジアにおける民族と宗教の分布図から独立や国家建設の動きを読み取っている。	・インドやアジア諸国の民族運動を理解し、その与えた影響を説明できる。 ・東南アジア諸地域における民族運動に日本が与えた影響を考え、説明できる。 ・西アジアにおける独立運動と国家建設に到る流れを国際関係を踏まえ、説明できる。	・インドやアジア諸国の民族運動の発生要因、その後の展開を主体的に探究できる。 ・東南アジア諸地域における民族運動に日本が与えた影響を主体的に探究できる。 ・西アジアにおける独立運動と国家建設に到る流れを国際関係を踏まえ、主体的に探究できる。
大量消費社会と市民生活の変容		①アメリカで大量消費社会が成立した要因をふまえ、大量消費社会の特徴を理解する。 ②アメリカ社会の大衆化と保守化を理解し、世界におよぼした影響を考察する。	・第一次世界大戦後のアメリカの情勢とアメリカ社会のあり方が、どのように大量消費社会に結びついていったのかを理解している。 ・第一次世界大戦後のアメリカにおける大衆化と保守化について理解している。	・第一次世界大戦後のアメリカでなぜ大量消費社会が表出したのかその原因を考え、説明できる。 ・第一次世界大戦後のアメリカにおいてなぜ保守化が起きたのかをその理由を考え、説明できる。	・第一次世界大戦後のアメリカ社会の変化を消費に着目し、主体的に探究できる。 ・第一次世界大戦後のアメリカでなぜ保守化が進んだのかに関してその理由を主体的に探究できる。
世界恐慌の発生と各国の対応		①大正政変がおこった背景を整理し、その後の政治の推移を理解する。 ②大戦景気がおこった背景を整理し、その特徴について理解する。	・普通選挙の実現にいたる護憲運動を展開した人々の動きと、政府側の対応の推移を理解している。 ・大戦景気が日本経済にあたえた影響を理解している。	・大正政変が大きくなるとなった理由を多角的に分析し、説明できる。 ・大戦景気が日本経済にどのような影響を与えたのかを考察し、説明できる。	・大正政変が大きくなるとなった理由を主体的に探究できる。 ・大戦景気が日本経済に与えた影響を対外関係や中央・地方の関係など主体的に探究できる。
ファシズムの台頭 日本の恐慌と満州事変		①ファシズム体制の特徴をまとめ、国内外への影響を理解する。 ②ヒトラーとナチ党がドイツで政権を獲得し、独裁体制を確立した経緯とその結果について考察する。	・ドイツを中心としたファシズムはどのようにして台頭してきたか年表にまとめている。 ・ドイツの台頭によって、イタリアがどのような政策を展開していくか理解している。	・なぜファシズムが台頭していったのかをヴェルサイユ体制と絡めて多角的に説明することができる。 ・ドイツの台頭が、イタリアにどのような影響を与えたのかを多角的に説明できる。	・ファシズムの台頭を外国との関係や国内の関係など多角的な視点から探究できる。 ・ドイツの台頭が、イタリアにどのような影響を与えたのかを主体的に探究できる。
日中戦争と国内外の動き 第二次世界大戦と太平洋戦争		①二・二六事件がおこった背景を考察し、その後の政治や軍部の動きの推移について理解する。 ②日中戦争がおこった背景を理解し、その後の国際社会に与えた影響を考察する ①第二次世界大戦がおこった背景を理解し、その後の政治の推移を考察する。 ②日本とアメリカの対立は、どのような背景から生じたか、日米関係を基軸として考察する。	・二・二六事件のおこった背景・過程について考察したうえで、その後の政府・軍部の動向を理解している。 ・日中戦争のおこった背景・過程について理解している。 ・第二次世界大戦のおこった背景を理解し、ヨーロッパ諸国がどのような影響を受けたのかまとめている。 ・日米の対立がどのような背景から生じたのかを理解している。	・二・二六事件のおこった背景・過程について考察し、その後の政府・軍部にどのような影響を与えたかを考察し、説明できる。 ・日中戦争のおこった背景・過程について説明できる。 ・第二次世界大戦のおこった背景を理解し、ヨーロッパ諸国がどのような影響を受けたのか説明できる。 ・日米の対立がどのような背景から生じたのかを説明できる。	・二・二六事件のおこった背景・過程について考察し、その後の日本の政治体制にどのような変化を与えたのかを主体的に探究できる。 ・日中戦争のおこった背景・過程について主体的に探究できる。 ・第二次世界大戦のおこった背景を理解し、ヨーロッパ諸国がどのような影響を受けたかを主体的に探究できる。 ・日米の対立がどのような背景で生じたのかを主体的に探究できる。
定期考査	2				

学習内容	学期	学習のねらい	観点別評価基準		
			知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
集団防衛体制と核開発	3 学期 (17)	①西側陣営が各地に集団防衛機構を構築した目的を理解する。 ②東側陣営がワルシャワ条約機構を築いた背景を理解し、世界におよぼした影響を考察する。	・西側陣営、東側陣営によるそれぞれの防衛体制の構築について理解している。 ・核兵器の独占がソ連に破られたことによりアメリカ社会が受けた衝撃を理解している。	・西側陣営、東側陣営によるそれぞれの防衛体制の構築について説明することができる。 ・核兵器の独占がソ連に破られたことによりアメリカ社会がどのような反応をしたか説明ができる。	・西側陣営、東側陣営によるそれぞれの防衛体制の構築について主体的に探究できる。 ・核兵器の独占がソ連に破られたことによりアメリカ社会がどのような反応をしたか主体的に探究できる。
米ソ両大国と平和共存		①1950年代のアメリカ社会の特色を理解し、「軍産複合体」について考察する。 ②世界的な人権擁護世論の高まりと、アメリカの人種差別への取り組みについて理解する。	・1950年代にアメリカの黒人差別への批判などが高まった背景を理解している。 ・東西冷戦を象徴する「ベルリンの壁」構築の背景を理解している。	・1950年代にアメリカの黒人差別への批判などが高まった背景を説明できる。 ・東西冷戦を象徴する「ベルリンの壁」構築の背景を説明できる。	・1950年代にアメリカの黒人差別への批判などが高まった背景を主体的に探究できる。 ・東西冷戦を象徴する「ベルリンの壁」構築の背景を国際関係を軸に主体的に探究できる。
西ヨーロッパの経済復興		①第二次世界大戦後の西ヨーロッパの地位の低下と、各国の戦後復興の状況を理解する。 ②西ヨーロッパが地域統合に取り組んだ背景と、ECとEFTAの形成について理解する。	・第二次世界大戦による荒廃によって、西ヨーロッパの国際的地位が低下したことを理解している。 ・西ヨーロッパの地域統合における歩みを理解している。	・第二次世界大戦による荒廃によって、西ヨーロッパの国際的地位が低下し、どのような影響を国際社会に与えたかを説明できる。 ・西ヨーロッパの地域統合について、その経緯を説明できる。	・第二次世界大戦による荒廃によって、西ヨーロッパの国際的地位が低下し、どのような影響を国際社会に与えたかを主体的に探究できる。 ・西ヨーロッパの地域統合について、その経緯を主体的に探究できる。
第三世界の連携と試練		①国際社会で「第三世界」が形成された背景と、その活動について理解する。 ②3度におよぶインド＝パキスタン戦争を経て、バングラデシュが独立する過程を理解する。	・アジア・アフリカでの新興独立国の増加と「第三世界」の形成が、国際社会に与えた影響を理解している。 ・カシミール地方やチベットをめぐる対立からおこった印パ戦争や中印国境戦争について、その経過と結果を理解している。 ・中東戦争の経過とパレスチナ解放機構の台頭を理解できる。	・アジア・アフリカでの新興独立国の増加と「第三世界」の形成が、国際社会に与えた影響を説明できる。 ・カシミール地方やチベットをめぐる対立からおこった印パ戦争や中印国境戦争について、その経過と結果を説明できる。 ・中東戦争の経過とパレスチナ解放機構の台頭を説明できる。	・アジア・アフリカでの新興独立国の増加と「第三世界」の形成が、国際社会に与えた影響を主体的に探究できる。 ・カシミール地方やチベットをめぐる対立からおこった印パ戦争や中印国境戦争について、その経過と結果を主体的に探究できる。 ・中東戦争の経過とパレスチナ解放機構の台頭を主体的に探究できる。
日本の高度経済成長		①サンフランシスコ平和条約締結後、労働運動や社会運動が抑えられ、逆コースとなっていく国家運営の特徴を理解する。 ②55年体制が成立した背景を理解し、その後の政治の推移を考察する。	・分裂していた社会党が統一するなかで、保守合同がおこなわれたことを理解し、二大政党の対立の実態をまとめている。 ・日本の国際連合加盟における課題であった、ソ連との国交樹立の経緯を理解している。	・分裂していた社会党が統一するなかで、保守合同がおこなわれたことを理解し、二大政党の対立の実態を説明できる。 ・日本の国際連合加盟における課題であった、ソ連との国交樹立の経緯を説明できる。	・分裂していた社会党が統一するなかで、保守合同がおこなわれたことを理解し、二大政党の対立の実態を主体的に探究できる。 ・日本の国際連合加盟における課題であった、ソ連との国交樹立の経緯を主体的に探究できる。
核戦争の恐怖から軍縮へ 冷戦構造のゆらぎ		①キューバ革命後のキューバの政策とアメリカの対応について理解し、カストロ政権がソ連に接近した理由を考察する。 ②1960～70年代に東ヨーロッパとの緊張緩和をめざすフランスとドイツがとった外交政策について理解する。	・ヨーロッパで進められた緊張緩和の動きを理解している。 ・核軍縮に対する米ソや国際社会の取り組みについて理解している。	・ヨーロッパで進められた緊張緩和の動きを説明できる。 ・核軍縮に対する米ソや国際社会の取り組みについて説明できる。	・ヨーロッパで進められた緊張緩和の動きを主体的に探究できる。 ・核軍縮に対する米ソや国際社会の取り組みについて主体的に探究できる。
世界経済の転換 アジア諸地域の経済発展と市場開放		①1970年代の世界経済の転換の背景を理解する。 ②アメリカの金ドル本位制の停止が、ドル＝ショックと呼ばれるほど衝撃的であった理由を理解し、その後の世界経済に与えた影響について考察する。	・1970年代に世界経済の転換がおこった背景を理解している。 ・金ドル本位制の停止が世界経済に与えた影響を理解している。 ・石油危機が発生した背景と世界経済に与えた影響を理解している。	・1970年代に世界経済の転換がおこった背景を説明できる。 ・金ドル本位制の停止が世界経済に与えた影響を説明できる。 ・石油危機が発生した背景と世界経済に与えた影響を説明できる。	・1970年代に世界経済の転換がおこった背景を主体的に探究できる。 ・金ドル本位制の停止が世界経済に与えた影響を主体的に探究できる。 ・石油危機が発生した背景と世界経済に与えた影響を主体的に探究できる。
冷戦の終結と国際情勢		①ソ連のアフガニスタン侵攻により再び東西の緊張が高まっていく経過を理解する。 ②チェルノブイリ原子力発電所の事故に象徴される、ソ連の沈滞の原因を理解する。	・ソ連のアフガニスタン侵攻が米ソ関係の悪化と軍事費の増大につながったことを理解している。 ・1980年代のソ連の沈滞の原因を理解している。 ・ゴルバチョフによる新思考外交を契機として冷戦が終結したことを理解している。	・ソ連のアフガニスタン侵攻が米ソ関係の悪化と軍事費の増大につながったことを説明できる。 ・1980年代のソ連の沈滞の原因を説明できる。 ・ゴルバチョフによる新思考外交を契機として冷戦が終結したことを説明できる。	・ソ連のアフガニスタン侵攻が米ソ関係の悪化と軍事費の増大につながったことを主体的に探究できる。 ・1980年代のソ連の沈滞の原因を主体的に探究できる。 ・ゴルバチョフによる新思考外交を契機として冷戦が終結したことを主体的に探究できる。
定期考查	1				